

特集 2014年度 大学入試を振り返る

本誌4・5月号では、2014年度入試の速報として大学入試センター試験の概況と国公立大、主要私立大の出願状況についてお伝えした。

この度、全国の高等学校の先生方にご協力いただき約189万件の貴重な入試結果調査（可否）データを集めることができた。また、各大学からも最終的な入試結果資料を送付いただいたので、本誌ではこれらの集計結果を踏まえ、2014年度入試を総括する。なお、個々の大学の入試結果については35ページ以降に掲載しているの是非ご活用いただきたい。

Part 1 国公立大学

18歳人口減により 国公立大志願者数も微減

この春の18歳人口は昨年より50,279人減の1,180,838人（前年比96%）で、センター試験の志願者数も昨年より12,672人減の560,672人（前年比98%）であった。現役生の志願者数が前年比96%と18歳人口に比例して減少した一方、既卒生等の志願者数が103%と増加したため、センター試験の志願者は18歳人口よりも減少率が低い。

【表1】はこの度判明した合格者数を含む国公立大の入試結果概況だ。国公立大の志願者数は前期日程で5,025人減の262,903人（前年比98%）と微減したが、これはセンター試験の志願者減少率と比例しており、国公立大の人気は大きく変化していないとみてよい。一方、後期日程は349人減の194,776人（前年比100%）。昨年はセンター試験の難化により後期の出願を諦めた生徒が多く、前期志願者に対する後期志願者数の割合（後期の志願率）は72.8%と前年より2.7%下がっていた。今年のセンター試験は理系生が受験する科目を中心

に平均点が上昇したため、後期の志願率は74.1%に上昇し、一昨年に近づいた格好だ。

国公立大全体は微減となったが、公立大は前・中・後すべての日程で志願者を増やした。新設の山形県立米沢栄養大が加わったことや、2012年度に公立大学法人化し今年度が分離・分割方式での2回目の入試となった鳥取環境大の志願者数が、748人→1,962人（前年比262%）と大幅に増加した影響が大きい。

次に合格者数を見てみよう。国公立前期日程は募集人員が183名増えているにもかかわらず、合格者は絞られており、81人減少した。ただし、志願者数がそれ以上に減少しているため、倍率は2.92倍→2.87倍へダウンし、門戸はやや広がった。中期日程では募集人員は昨年と変わらないが、合格者数が増加した。志願者数も増加しているため倍率は6.00倍→5.94倍へと前期同様ダウンした。後期日程では募集人員、合格者数、志願者数ともに減少しているが、なかでも合格者数が大きく絞られ、倍率は7.73倍→7.80倍となり、昨年より厳しい入試となった。

【表1】国公立大入試結果 全体概況

区分	募集人員		志願者数 (A)			合格者数 (B)			倍率 (A/B)		
	13	14	13	14	14/13	13	14	14/13	13	14	
国立	前期	64,979	65,070	207,589	201,628	97%	72,477	72,527	100%	2.86	2.78
	後期	15,941	15,929	151,379	149,596	99%	20,096	19,896	99%	7.53	7.52
	全体	80,920	80,999	358,968	351,224	98%	92,573	92,423	100%	3.88	3.80
公立	前期	14,793	14,885	60,339	61,275	102%	19,321	19,190	99%	3.12	3.19
	中期	1,933	1,933	26,614	26,732	100%	4,432	4,498	101%	6.00	5.94
	後期	3,571	3,555	43,746	45,180	103%	5,132	5,063	99%	8.52	8.92
	全体	20,297	20,373	130,699	133,187	102%	28,885	28,751	100%	4.52	4.63
国公立	前期	79,772	79,955	267,928	262,903	98%	91,798	91,717	100%	2.92	2.87
	中期	1,933	1,933	26,614	26,732	100%	4,432	4,498	101%	6.00	5.94
	後期	19,512	19,484	195,125	194,776	100%	25,228	24,959	99%	7.73	7.80
	全体	101,217	101,372	489,667	484,411	99%	121,458	121,174	100%	4.03	4.00

※ 5月30日現在河合塾集計

【表2】国公立大（前期）地区別入試結果

地区	志願者数 (A)			合格者数 (B)			倍率 (A/B)	
	13	14	14/13	13	14	14/13	13	14
北海道	13,794	13,201	96%	5,128	4,963	97%	2.7	2.7
東北	21,930	22,321	102%	7,808	7,907	101%	2.8	2.8
関東・甲信越	79,547	79,973	101%	25,106	25,111	100%	3.2	3.2
東海・北陸	34,425	32,491	94%	11,799	11,860	101%	2.9	2.7
近畿	44,376	43,069	97%	15,264	15,250	100%	2.9	2.8
中国・四国	36,623	36,542	100%	12,908	12,916	100%	2.8	2.8
九州	37,233	35,306	95%	13,785	13,710	99%	2.7	2.6
全体	267,928	262,903	98%	91,798	91,717	100%	2.9	2.9

地区により異なる志願状況
出身地区外の大学への受験率増加

【表2】は前期日程の入試結果を地区別にまとめたものである。北海道地区は志願者前年比96%と減少しているが、これは後述する北海道大と募集人員を大きく減らした室蘭工業大の影響が大きい。北海道地区で減った593人中442人がこの2大学の減少分である。

東北地区は前年比102%と志願者の増加率が高い。この地区では青森公立大が442→927人、山形大が3,021→3,321人と大きく志願者を増やしている。

東海・北陸地区は前年比94%と大きく志願者が減少している。富山大3,811→3,342人、岐阜大3,383→2,542人、静岡大3,218→2,912人、三重大3,093→2,699人などが大きく減少した大学である。

地区別の動向については、入試結果調査の集計で従来とは異なる動きが見られたので紹介しておく。【表3】は各地区の国公立大前期日程志願者のうち、自分の通う高校と同じ地区にある大学を志願した者の割合を昨年と今年で比較したものだ。すべての地区で地区内の大学に志願した生徒の割合が減っている。ここ数年は不況の影響もあり地元志向が強かつ

【表3】在籍地区の国公立大（前期）を志願した生徒の割合

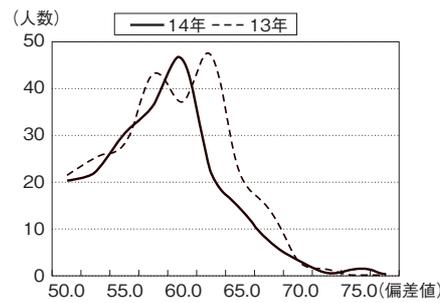
	北海道		東北		関東・甲信越		東海・北陸		近畿		中国・四国		九州	
今年	4,916	67.4%	10,095	64.8%	29,346	74.5%	21,558	57.3%	16,964	63.6%	15,771	65.1%	21,445	72.2%
昨年	5,531	69.3%	10,827	65.8%	30,702	75.5%	22,872	58.7%	17,510	65.7%	16,490	65.3%	22,845	73.5%

※河合塾入試結果調査データから集計

【表4】国立難関10大学入試結果

大学名	前期								後期											
	募集人員		志願者数 (A)			合格者数 (B)			倍率 (A/B)		募集人員		志願者数 (A)			合格者数 (B)			倍率 (A/B)	
	13	14	13	14	14/13	13	14	14/13	13	14	13	14	14/13	13	14	14/13	13	14		
北海道	1,939	1,939	6,130	5,815	95%	2,081	2,083	100%	2.9	2.8	483	483	4,314	4,324	100%	542	536	99%	8.0	8.1
東北	1,865	1,865	5,101	5,053	99%	2,013	2,023	100%	2.5	2.5	93	93	1,505	1,339	89%	116	109	94%	13.0	12.3
東京	2,963	2,963	9,329	9,415	101%	3,009	3,009	100%	3.1	3.1	100	100	2,908	3,047	105%	100	100	100%	29.1	30.5
東京工業	923	923	4,101	3,857	94%	969	961	99%	4.2	4.0	20	20	532	549	103%	22	25	114%	24.2	22.0
一橋	840	840	2,677	2,697	101%	870	871	100%	3.1	3.1	80	80	1,268	1,266	100%	87	85	98%	14.6	14.9
名古屋	1,718	1,728	4,884	4,728	97%	1,842	1,839	100%	2.7	2.6	5	5	52	41	79%	5	6	120%	10.4	6.8
京都	2,846	2,846	8,460	8,355	99%	2,928	2,935	100%	2.9	2.8										
大阪	2,834	2,834	7,203	7,045	98%	2,997	3,007	100%	2.4	2.3	346	346	3,349	3,225	96%	409	389	95%	8.2	8.3
神戸	1,872	1,874	5,852	5,887	101%	2,016	2,012	100%	2.9	2.9	443	443	4,381	4,200	96%	548	542	99%	8.0	7.7
九州	2,030	2,045	5,607	5,235	93%	2,191	2,202	101%	2.6	2.4	340	325	3,079	2,750	89%	384	373	97%	8.0	7.4
全体	19,830	19,857	59,344	58,087	98%	20,916	20,942	100%	2.8	2.8	1,910	1,895	21,388	20,741	97%	2,213	2,165	98%	9.7	9.6

【グラフ5】北海道大（総合入試文系一前）
受験者の学力分布



※グラフは該当大受験者の全統記述模試時の偏差値をもとに作成した学力分布（河合塾入試結果調査データより）

だが、今年度はその流れが緩和され、他地区の大学を受験する生徒が増えている。首都圏や近畿地区への受験だけでなく、北海道から九州、中国・四国から東北といった遠方の大学への受験も増えており、全国的に受験生の足が伸びているようだ。

難関大志願状況
一部の大学でボーダー・ランクダウン

【表4】は難関10大学の入試結果をまとめたものである。志願状況については本誌4・5月号で詳細に分析しているので、ここでは入試結果調査データを元に今年度の動向を検証してみた。

北海道大は昨年志願者増加率の高かった総合入試文系、総合入試理系、歯学部や、法学部をのぞく文系学部が志願者を減らし、前期日程全体では前年比95%と減少した。総合入試文系は2011年度の導入以来、隔年現象を起こしている。北海道大総合入試文系受験者の2次偏差値分布をみると、今年度は偏差値62.5以上の層が減少しており、ボーダーランクは1ランクダウン（偏差値60.0）した【グラフ5】。

東北大の後期減少は理学部の志願者減によるものだ。昨年は京都大（理一前）の併願先となっていた大阪大（理）が後

【表6】 東北大（理－後）受験者の前期出願先

	13		14		14-13
	人数	人数	人数	人数	
1 東京大（理科一類）	124	東京大（理科一類）	119	-5	
2 東北大（理）	104	東北大（理）	75	-29	
3 京都大（理）	73	東京大（理科二類）	54	-3	
4 東京大（理科二類）	57	京都大（理）	42	-31	
5 東北大（工）	42	東北大（工）	32	-10	
6 京都大（工）	29	京都大（工）	29	0	
7 東京工業大（第1類）	22	東京工業大（第1類）	15	-7	

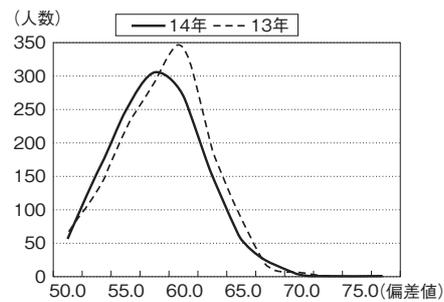
※河合塾入試結果調査データから集計

期日程を廃止したため、新たな併願先として東北大の理学部が大幅に志願者を増やし、倍率もアップしていた。【表6】は入試結果調査データから、東北大（理－後）志願者の前期出願先を集計し、昨年と今年で比較したものである。京都大（理）と東北大（理）の前期志願者が大きく減少しているのがわかる。昨春入試における倍率アップにより、東北大（理）を併願先とする前期京都大志願者が減ったほか、前期東北大志願者のなかにも、後期出願を諦めた受験生が増えた様子が伺える。東北大（理－前）志願者の後期併願先として、埼玉大（理）や北海道大（理）への出願が増加している。

名古屋大は前期日程全体で志願者前年比97%と減少しており、3分の1の募集区分でボーダー・ランクがダウンした。【グラフ7】は名古屋大（工－前）受験者の2次偏差値分布である。山が一回り小さくなり、左側へシフトしているのがわかる。対照的に、近隣の名古屋工業大では約2割志願者が増加し、工学部（第一部）7学科中5学科でボーダー・ランクがアップした。来年度から新課程入試に移行するため、浪人を避けたいという安全志向が働いた受験生も少なからずいたようだ。

今年度も堅調な人気を示した京都大は、他地区からの受験者が増えている。京都大が公表している志願者の出身高等学校所在地の内訳を見ると、ここ3年間の関西地区以外の志願者比率は48.3%（2012年度）→48.5%（2013年度）→49.5%（2014

【グラフ7】 名古屋大（工－前）受験者の学力分布



※グラフ5と同条件で作成

年度）と高まっている。前述した河合塾入試結果調査に見られた地区間移動が増えている傾向を裏付ける形になった。

「文低理高」の流れは緩やかに「教育」学系の不人気

【表8】は前期日程の学部系統別入試結果だ。大きな傾向としては近年続く文低理高に変わりはなく、国公立大前期日程全体が前年比98%に対して、文系系統はそれより1~2%低く、理系系統は1~2%高いところが多い。ただし、近年と比べるとその差は縮まっている。志願者の減少が目立つのは教育学系で、「教員養成課程」93%、「総合科学課程」91%と大きく減少し、倍率も「教員養成課程」で2.7倍→2.4倍、「総合科学課程」で2.7倍→2.6倍へダウンした。教育学系は資格系人気の影響を受け2010年度入試から数年間志願者数を伸ばしたが、昨年からは減少に転じていた。近年私立大で教育系の大学・学部の新設が相次ぎ、志願先が分散していることも影響しているだろう。

【グラフ9】は国公立大前期日程について、2014年度の合否のデータから設定した実態ランクのアップ・ダウン率を系統別に表している（系統により募集区分が大きく異なるため、各系統の募集区分数におけるアップ・ダウン件数の占有率を

【表8】 国公立大（前期） 学部系統別入試結果

系統	志願者数 (A)			合格者数 (B)			倍率 (A/B)	
	13	14	14/13	13	14	14/13	13	14
文・人文	25,651	24,967	97%	9,100	9,045	99%	2.8	2.8
社会・国際	9,048	9,056	100%	3,336	3,347	100%	2.7	2.7
法・政治	12,082	11,636	96%	4,797	4,845	101%	2.5	2.4
経済・経営・商	25,854	25,957	100%	10,132	10,099	100%	2.6	2.6
教育－教員養成課程	20,899	19,427	93%	7,863	7,949	101%	2.7	2.4
教育－総合科学課程	7,405	6,729	91%	2,700	2,606	97%	2.7	2.6
理	16,359	16,047	98%	5,760	5,817	101%	2.8	2.8
工	71,555	70,645	99%	25,587	25,441	99%	2.8	2.8
農	17,745	17,722	100%	5,965	5,954	100%	3.0	3.0
医・歯・薬・保健	42,930	42,761	100%	11,174	11,249	101%	3.8	3.8
医	19,676	19,919	101%	3,696	3,702	100%	5.3	5.4
歯	2,047	2,005	98%	480	474	99%	4.3	4.2
薬	3,391	3,324	98%	827	843	102%	4.1	3.9
看護	11,730	11,577	99%	4,181	4,241	101%	2.8	2.7
医療技術・他	6,086	5,936	98%	1,990	1,989	100%	3.1	3.0
生活科学	2,568	2,557	100%	773	790	102%	3.3	3.2
芸術・スポーツ科学	7,648	7,551	99%	1,663	1,663	100%	4.6	4.5
総合・環境・情報・人間	8,184	7,848	96%	2,948	2,912	99%	2.8	2.7
全体	267,928	262,903	98%	91,798	91,717	100%	2.9	2.9

※5月30日現在河合塾集計、学部系統の分類は河合塾による

表示)。志願者が大幅に減少した教育学系はランクダウンしている件数が多い。その他の系統では、昨年までは文系系統でダウン、理系系統でアップが目立ったが、今年はこれまでのような如実な傾向は出ていない。

2015年度入試のトピックス

本誌発行時点で判明している来年度入試の主な情報をまとめておく。

来年度の新課程入試では、センター試験の理科が基礎を付した科目（以下、理科①）と付していない科目（以下、理科②）に変更になる。各大学のセンター試験科目をみると、理科を課す文系学部では理科①から2科目が基本だ。一方、理・工・農学系や医療系の医・歯・薬といった分野では、理科②2科目を指定しているところが多い。注意が必要なのは医療系の保健分野や生活科学系で、理科①での受験が可能か、理科②のみを課しているのが割れている。これらの系統は元々2次試験で理科を課している大学が少なく、理科②を勉強することの負担感が強いいため、理科②を課す大学の来年度の志望動向が注目される。

学部・学科の改組では、**東京学芸大**が教養系を教育支援系に改め、5課程16専攻を1課程1専攻7コースとし、募集はコース単位で行う。募集人員は教育支援系全体で335名→165名へと半減し、その分、学校教育系（2015年度教育系から名称変更）の募集人員が730名→850名へと増員になる。**鳥取大**は工学部をこれまでの8学科から4学科へ再編する。**高知工科大**はマネジメント学部を高知短大を吸収し、経済・マネジメント学群へと改組する。修学キャンパスは1年次は従来と同じ香

美キャンパスだが、2～4年次は今まで短大のあった永国寺キャンパスで学ぶことになる。

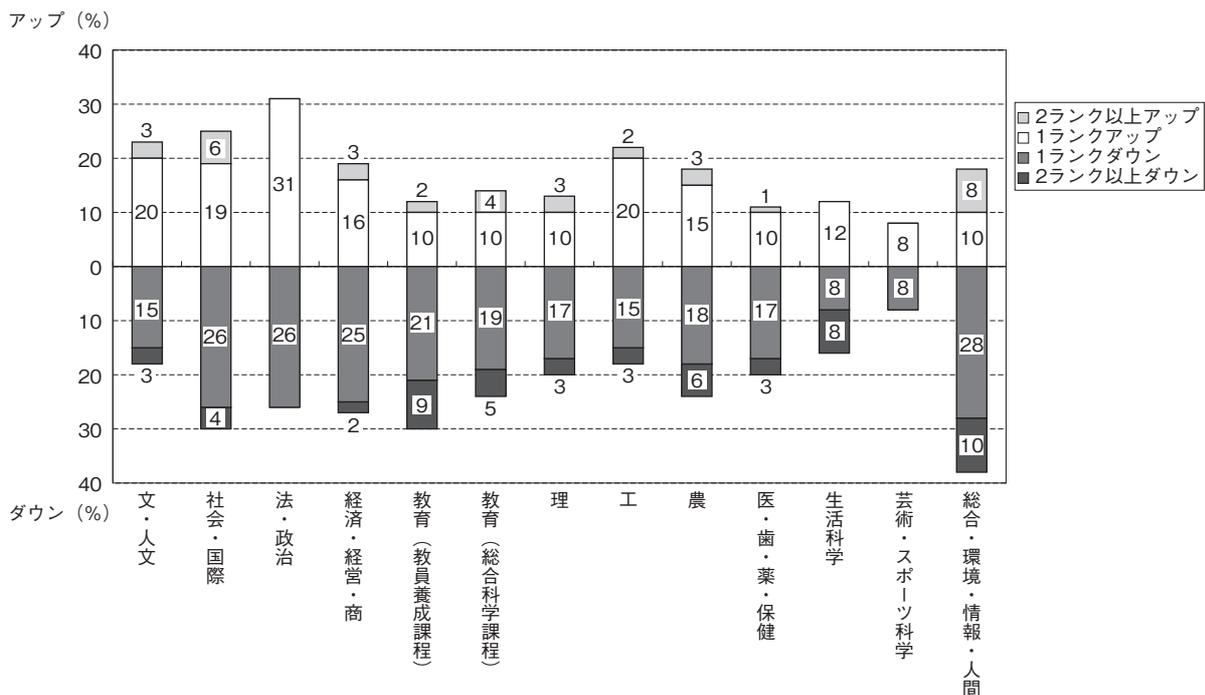
医学科では**鹿児島大**が新たに2段階選抜の実施を予告している。これで九州地区のすべての医学科で2段階選抜が行われることになるため、来年度入試では2段階選抜を行っていない近隣地区の医学科に志願者が集中することが予想される。他に医学科のトピックスとして、**北海道大**、**京都大**で2次試験理科で「センターで利用する科目とは異なる科目を含むこと」という条件が廃止される。これによりセンター・2次試験あわせて理科3科目の勉強が必須な医学科は、全国で**九州大**のみとなった。なお、九州大では文学部前期日程の2次試験で科目変更があり、従来の英・数・国3教科に地歴が加わり、4教科になる。

日程方式の変更では、来年度も**鳥取大**（農－共同獣医）、**広島大**（薬）などで後期日程が廃止されるほか、今年度新設された**敦賀市立看護大**、公立大学法人化された**長岡造形大**の2大学が、大学独自入試から分離分割方式での実施に変わる。敦賀市立大は前・後期、長岡造形大は前・中期で実施予定だ。

最後に科目変更について触れておこう。来年度入試では新たに7科目化する大学が散見される。科目は5教科6科目から、地公2科目必須の文型に変更する大学が多い。新課程入試では文系生は理科基礎2科目が基本となるため、あわせて地歴・公民も2科目に変更してきたのだろう。

このほかにも、入試科目の変更、学部・学科の新設・再編や募集区分の変更などを予定している大学がある。本誌21ページ以降に一部をまとめているほか、河合塾の入試情報サイトKei-Netでも最新の情報を掲載しているので、是非ご利用いただきたい。

【グラフ9】 国公立大前期2次ランク 系統別アップ・ダウン率



Part 2 私立大学

ここからは私立大の入試状況を見ていく。本誌4・5月号では、全国主要196大学の一般入試一期の志願状況を速報としてお伝えした。今号では、志願者・受験者・合格者数の集計が完了した全国526大学の入試結果をもとに、2014年度の私立大一般入試についてレポートする。

18歳人口減少も 志願者数・合格者数ともに増加

初めに私立大一般入試の近年の状況を振り返っておこう。私立大では2007年度以降、志願者（延べ数：以降全て同じ）は緩やかに増加している。この間、2008年度には都市部にある主要21大学（大学名は表10参照）の志願者数がその他の私立大志願者数の合計を上回ったが、2009年度以降は地元志向と安全志向により、その他の大学で志願者が増えており、志願者数は再び逆転し、その差は年々広がっている。

今春行われた2014年度の私立大一般入試全体の志願者数は、前年を約6万8千人上回る302万5千人（前年比102%）であった【表10】。入試方式別の内訳では、一般方式が203万人（前年比101%）、センター方式が99万5千人（同105%）とセンター方式での増加率がやや高い。河合塾が実施した入試結果調査においても、私立大における受験生1人あたりの受験校数は、4.96校→5.08校と若干増加している。近年、インターネットを利用した出願や一度の入試で複数の学部・学科を併願でき

る制度を導入する大学が増えており、こういった動きが志願者数の増加につながったものと思われる。

期別に見ると、一期は281万4千人（前年比103%）、二期では21万1千人（同99%）となっている。二期の志願者数の増減は、一期入試の合格者数の増減に左右される。今春は一期が比較的易しい入試となったこともあり、二期入試の前に希望する大学に合格できた受験生が多かったようである。

次に合格者数を確認する。私立大の合格者数は、定員超過への対応で、2008・09年度の2年ほど減少傾向にあったが、2010年度入試で増加に転じ、今春入試でも私立大全体で前年比107%、人数にして約5万6千人の増加となった。一般・センターの両方式とも志願者数の増加率を上回る伸びを示している。とくにセンター方式では、前年比112%と合格者の増加率が高く、倍率（志願者／合格者：以降倍率は全て同じ）も3.1倍→2.9倍へとダウンした。多くの大学で昨春よりも受かりやすく感じられたのではないだろうか。

難関大の志願者は前年並み 大学グループで明暗分かれる

【表11】は首都圏・近畿圏の21大学の入試結果を大学グループ別に集計したものである。主要21大学の志願者数は前年比100%と私立大全体ほど増えていない。大学グループごとの状況を見ていくと、「早慶上理」は前年比100%となった

【表10】私立大入試結果（一般・センター／一期・二期別）

	志願者数 (A)					合格者数 (B)					倍率 (A/B)			
	12	13	14	13/12	14/13	12	13	14	13/12	14/13	12	13	14	
全体	2,778,480	2,956,716	3,024,941	106%	102%	822,886	845,102	900,647	103%	107%	3.4	3.5	3.4	
方式別	一般	1,855,170	2,007,127	2,029,939	108%	101%	504,743	534,968	552,550	106%	103%	3.7	3.8	3.7
	センター	923,310	949,589	995,002	103%	105%	318,143	310,134	348,097	97%	112%	2.9	3.1	2.9
期別	一期	2,590,566	2,743,164	2,813,854	106%	103%	763,681	787,179	836,546	103%	106%	3.4	3.5	3.4
	二期	187,914	213,552	211,087	114%	99%	59,205	57,923	64,101	98%	111%	3.2	3.7	3.3

※5月30日現在 河合塾集計（526大学判明分）

※2012～14年度の志願者数・合格者数公表大学を集計（合格者数の未判明やいずれかの年度データが非公表の学部・学科等については集計対象から除く）

※集計には公立大学法人へ移行した次の大学の数値を含む（2012年度：鳥取環境大）

※大学公表値には一部推薦入試等の数字が含まれている場合がある 【表10】以降も同条件で作成

【表11】私立大入試結果（主要大学グループ）

大学グループ	志願者数 (A)					合格者数 (B)					倍率 (A/B)		
	12	13	14	13/12	14/13	12	13	14	13/12	14/13	12	13	14
526大学 計	2,778,480	2,956,716	3,024,941	106%	102%	822,886	845,102	900,647	103%	107%	3.4	3.5	3.4
主要21大学計	1,282,314	1,319,877	1,317,413	103%	100%	303,488	305,013	318,989	101%	105%	4.2	4.3	4.1
早慶上理	229,733	228,942	229,869	100%	100%	50,292	49,762	50,474	99%	101%	4.6	4.6	4.6
MARCH	408,533	408,859	392,872	100%	96%	77,761	79,480	82,091	102%	103%	5.3	5.1	4.8
日東駒専	223,309	229,818	226,268	103%	98%	60,170	63,055	65,616	105%	104%	3.7	3.6	3.4
関関同立	260,498	266,249	267,233	102%	100%	74,964	73,188	78,241	98%	107%	3.5	3.6	3.4
産近甲龍	160,241	186,009	201,171	116%	108%	40,301	39,528	42,567	98%	108%	4.0	4.7	4.7
上記以外の大学	1,496,166	1,636,839	1,707,528	109%	104%	519,398	540,089	581,658	104%	108%	2.9	3.0	2.9

※早慶上理：早稲田・慶應義塾・上智・東京理科大学

MARCH：明治・青山学院・立教・中央・法政

日東駒専：日本・東洋・駒澤・専修

関関同立：関西・関西学院・同志社・立命館

産近甲龍：京都産業・近畿・甲南・龍谷

が、「MARCH」「日東駒専」はそれぞれ前年比96%、同98%と減少した。近畿圏では「関関同立」が前年比100%、「産近甲龍」は同108%と2年連続で志願者が増加している。なお、主な大学グループを除いた大学の志願者数は前年比104%と増加しており、受験生の安全志向がうかがえる。

【グラフ12】は首都圏・近畿圏の難関大3グループの2010年度からの志願者数の推移である。「早慶上理」では、早稲田大での志願者減少が目立つ。「MARCH」でも、明治大が2010年度をピークに志願者減少が続いており、今春入試では文系学部でのランクダウンが目立つ。近畿圏の「関関同立」では、同志社大が少しずつではあるが4年連続で志願者を増やしている。立命館大と関西大は志願者の増減が対照的な動きを示している。

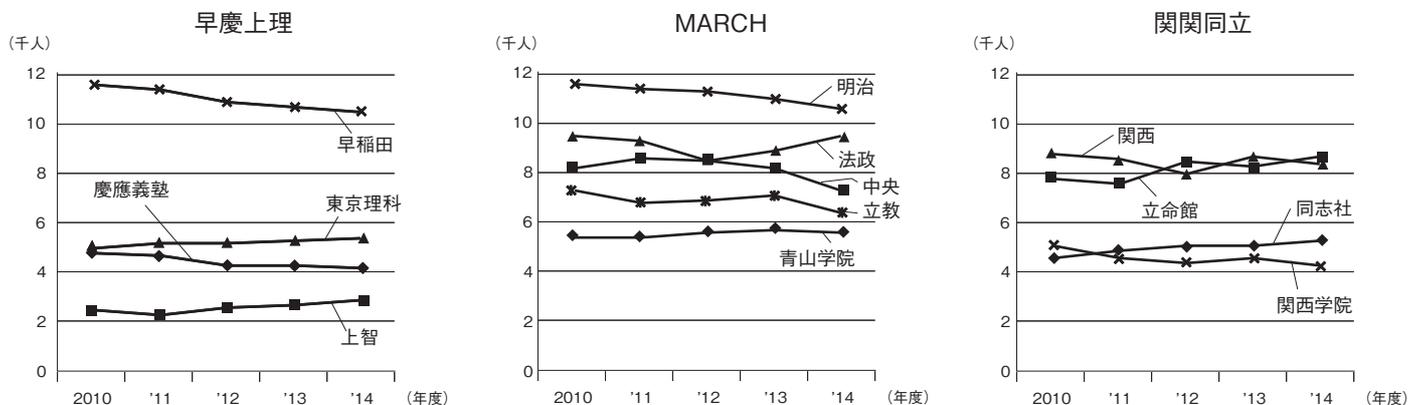
なお、合格者数については、いずれのグループも増加している。合格者数が大きく増加した大学は駒澤大1,012人（前年比111%）、法政大2,996人（同117%）、立命館大3,356人（同112%）、龍谷大972人（同111%）、近畿大2,086人（同112%）などである。これらの大学は学部・学科の新設等による募集人員の大幅な増減がないにもかかわらず合格者数が増加している。なかでも法政大は昨春も前年より1,409人合格者を増やしており、2年連続の大幅増となった。志願者が増えたT

日程の一部でランクアップしたところもあるが、全体の3分の1の募集区分でランクダウンした。一方、合格者数を大きく減らした大学は上智大△391人（前年比94%）、立教大△754人（同95%）、京都産業大△391人（同95%）などである。このうち、京都産業大は志願者数が約6千人増（前年比119%）となっており、倍率はこの3年間で3.4倍→4.0倍→5.1倍とアップし、厳しい入試となった。

首都圏の志願者は前年並み 2大都市圏の近隣地区は志願者増

次に地区別の動向を検証したい。【表13】は今春の私立大の入試結果を地区別に分けたものである。首都圏の志願者数は前年並みとなっているのに対し、北海道、関東・甲信越、東海・北陸地区での志願者の増加率が高くなっている。北海道地区の志願者増加は北海道科学大の影響が大きい。北海道科学大は北海道工業大から名称変更し、創生工学部と空間創造学部を工学部に改組、医療系3学科を新設した。大学全体の志願者は1,178人→8,412人と大幅な増加となった。東海地区では愛知大、中京大、南山大、名城大の4大学の志願者数が、例年地区志願者数の4割以上を占める。この4大学の志

【グラフ12】 難関大3グループの志願者数推移



【表13】 私立大入試結果（地区別）

地区	志願者数 (A)					合格者数 (B)					倍率 (A/B)		
	12	13	14	13/12	14/13	12	13	14	13/12	14/13	12	13	14
北海道	27,536	31,381	37,909	114%	121%	15,021	16,016	19,540	107%	122%	1.8	2.0	1.9
東北	29,531	31,782	33,790	108%	106%	14,930	14,729	15,382	99%	104%	2.0	2.2	2.2
関東・甲信越(首都圏除く)	33,869	36,364	38,231	107%	105%	13,331	14,407	15,255	108%	106%	2.5	2.5	2.5
首都圏	1,692,111	1,748,513	1,757,453	103%	101%	436,189	444,548	473,632	102%	107%	3.9	3.9	3.7
東海・北陸	220,259	262,443	281,728	119%	107%	88,553	99,084	107,978	112%	109%	2.5	2.6	2.6
近畿	618,025	670,889	700,622	109%	104%	185,173	182,527	194,760	99%	107%	3.3	3.7	3.6
中国・四国	49,867	52,828	52,381	106%	99%	24,919	26,622	26,690	107%	100%	2.0	2.0	2.0
九州	107,282	122,516	122,827	114%	100%	44,770	47,169	47,410	105%	101%	2.4	2.6	2.6
全体	2,778,480	2,956,716	3,024,941	106%	102%	822,886	845,102	900,647	103%	107%	3.4	3.5	3.4

願者は前年比102%であるが、その他の大学の志願者数は同110%となっており、東海地区での志願者増加の要因は拠点大を除いた大学群にあることが分かる。なかでも志願者の増加率が高いのが**名古屋外国語大**（前年比289%）。今春入試から入試方式・日程をどのように組み合わせても上限35,000円で出願できる検定料割引制度を導入したことが、大幅な志願者増加につながったようだ。

今春も文低理高、医療系人気が継続

【表14】は系統別の入試結果を集計したものである。大筋は4・5月号でお伝えした内容と変化ないが、特徴的な系統について再度取り上げておく。

文系は各系統とも、私立大全体の志願者前年比102%を下回っており、相対的に人気は低調といえる。とくに昨春志願者を大きく増やした「法・政治」学系はその反動から前年比96%と全系統の中でもっとも低い値となった。

理系では「理」「工」「農」のいずれの系統も志願者数が増加している。3系統とも2009年度入試以降、志願者が増え続けており、今春もその勢いに翳りは見られない。

「医・歯・薬・保健」系では、「医」「歯」「薬」での人気が高く、いずれも前年から大きく志願者が増加している。一方、学部・学科の新設が相次いだ「看護」の志願者数は前年並みにとどまっている。この分野の人気も落ち着きを見せ始めているようだ。

2015年度入試のトピックス

2015年度入試の大きなトピックとしては、キャンパス移転・再配置の動きが挙げられる。首都圏では**大妻女子大**が文学部と家政学部の1年次が履修していた狭山台キャンパスの機能を千代田キャンパスに移転する。これにより両学部の学生は千代田キャンパスで4年間一貫して学ぶことになる。東海地区では**南山大**が理工学部を瀬戸キャンパスから名古屋キャンパスに移転する。近畿地区では、**立命館大**が大阪いばらきキャンパスを開校し、経営学部と政策科学部を移転する。また、**龍谷大**は国際学部（国際文化学部から2015年度改組予定）を瀬田キャンパス（滋賀県）から深草キャンパス（京都市）へ移転し、瀬田キャンパスには農学部を新設する予定だ。

このほかの主要大の入試変更点として、**上智大**が国際教養学部を除く全学部でアカデミック英語能力判定試験（TEAP）利用型入試を導入する。この方式では、英語の試験は実施せず、代わりに日本英語検定協会（英検）が実施するTEAPを事前に受験し、そのスコアを出願時に提出する。5月に実施した第1回全統マーク模試では大学全体で384名の募集人員に対して527人の志望者を集めている。

なお、新課程入試初年度にあたる来春入試の入試科目について、何らかの情報を公表している私立大は579大学中286大学（5月30日現在、河合塾調べ）。現時点では数学・理科の出題科目のみを公表している大学がほとんどで、必要科目数や具体的な入試方式ごとの科目で公表している大学はごく一部に限られる。これから夏にかけて、2015年度入試の概要が徐々に明らかになっていくため、今後の情報に注目したい。

今回は本誌10月号にて、2015年度入試の変更点を交えつつ、最新の入試動向をお伝えする。

【表14】私立大入試結果（学部系統別）

系統	志願者数 (A)					合格者数 (B)					倍率 (A/B)		
	12	13	14	13/12	14/13	12	13	14	13/12	14/13	12	13	14
文・人文	584,524	608,230	604,536	104%	99%	175,306	182,756	194,170	104%	106%	3.3	3.3	3.1
社会・国際	259,018	256,939	256,819	99%	100%	74,937	76,133	80,676	102%	106%	3.5	3.4	3.2
法・政治	211,491	225,967	217,443	107%	96%	72,569	73,136	76,401	101%	104%	2.9	3.1	2.8
経済・経営・商	539,117	549,986	545,202	102%	99%	156,005	159,343	168,660	102%	106%	3.5	3.5	3.2
理	118,042	126,906	130,102	108%	103%	34,927	35,796	38,204	102%	107%	3.4	3.5	3.4
工	433,123	480,274	519,533	111%	108%	141,322	145,280	156,220	103%	108%	3.1	3.3	3.3
農	88,896	96,352	103,672	108%	108%	22,490	22,266	24,695	99%	111%	4.0	4.3	4.2
医・歯・薬・保健	271,493	321,386	356,736	118%	111%	60,369	63,486	69,301	105%	109%	4.5	5.1	5.1
医	80,128	91,701	104,140	114%	114%	5,294	5,106	5,211	96%	102%	15.1	18.0	20.0
歯	4,527	5,320	6,779	118%	127%	2,265	2,433	2,570	107%	106%	2.0	2.2	2.6
薬	70,360	89,214	103,705	127%	116%	21,552	22,091	22,464	103%	102%	3.3	4.0	4.6
看護	60,979	68,907	69,576	113%	101%	14,635	15,736	18,601	108%	118%	4.2	4.4	3.7
医療技術・他	55,499	66,244	72,536	119%	109%	16,623	18,120	20,455	109%	113%	3.3	3.7	3.5
生活科学	73,714	85,242	83,255	116%	98%	22,538	24,346	26,903	108%	111%	3.3	3.5	3.1
芸術・スポーツ科学	87,426	92,457	92,675	106%	100%	26,847	26,555	27,758	99%	105%	3.3	3.5	3.3
総合・環境・情報・人間	111,176	112,611	114,515	101%	102%	35,226	35,731	37,359	101%	105%	3.2	3.2	3.1
全体	2,778,020	2,956,350	3,024,488	106%	102%	822,536	844,828	900,347	103%	107%	3.4	3.5	3.4

※大学計で入試結果を公表している大学は上表には含まない

※一般方式では、学部・学科ごとの志願者数・合格者数を公表していない大学があるため、全体集計値が他と合わない